

★安心安全な学校方向性ニュース(保護者のみなさまへ)

**【モックルガード】**

昨日、自宅でテレビを見ていると、対面している人の間にパーテーションを置いた場合の、空気の流れについての実験の様子が紹介されていました。明らかに部屋の上の方に空気が流れ、互いの呼気が相手に流れる様子は少なくなっていました。想像上では感じられていたことですが、パーテーションがある程度実際の場面で有効であることがわかりました。

さてそこで、標記のモックルガードという河内長野市のパーテーションをご紹介します。市内で包装資材を制作する業者さんのご協力により、市内各小中学校の全児童生徒分のパーテーションが配布されることとなりました。地域の子どもたちのために地域の会社のご協力くださったということで、まさに、「地域の子どもは地域で育てる」という言葉通りだと感じました。しかも一目でわかるその工夫。できるだけ簡単に作れるように様々な工夫がされています。

人類はどのようにしてここまでの発展を遂げたのか？その答えは、個々の人々が人生掛けて様々な工夫を行い、その集大成が今の発展につながっているのだと思います。モックルガードをありがたく使うだけでなく、その工夫にも目を向けて下さい。このような工夫されたアイデアをたくさん学ぶことで、あなたもいいアイデアをうみ出せる人になれると思います。そういう意味でも、このモックルガードは、安全対策と創意工夫の二つの面ありがたい存在です。大切に使いましょう。

★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

学校だよりは、例年は、学校から【生徒・保護者・地域】に向けて発信しているものですが、基本は一方通行でした。しかし今年度はできるだけ返信欄を設けて、保護者や地域のみなさまのお声を学校教育に少しでも反映できたらと思っています。そうした中、さっそく、2名の方がご返信くださいました。「中学生に読んで欲しい本」としてご紹介してくださったものをここにお知らせします。

保護者 A さん

題名 今までにない職業をつくる

著者 甲野 善紀

簡単な内容の紹介(読んだことがなかったのでこちらで検索して調べました)

古武道の研究科ある著者が、自然と共に生きるという生き方に関して、様々な切り口で紹介されている本だそうです。やさしい内容から難しい内容へという学び方だけでは限界があるという点、今まで当たり前だと思っていたことの裏や隙間に隠された新しい発見に関しての事、「ものを学ぼうとする意欲」につながる探求心を持たせる教育の大切さにも言及されているようです。好奇心から生まれる発想を大切に、時代を見据えた発明、発見を促すことが大切と語られているようです。

地域の方 B さん

**題名** 星ちりばめたる旗（ポプラ社）

**著者** 小手毬るい

簡単な内容の紹介(読んだことがなかったのでこちらで検索して調べました)

日本人であることが、罪になる。

祖母は、母は、そんな時代を生き抜いた——

日本人というルーツに苦しめられた祖母、ルーツを捨てようとした母、そしてそのルーツに惹かれる私。

アメリカ在住日系人家族の三世代を描く百年の物語。

太平洋戦争を挟んでの日本とアメリカの姿とともに、時代に翻弄されながら生きる人々のアイデンティティのありようを描き出し、現在の世界に巻き起こる問題をも浮かび上がらせる骨太な感動作。

という書評がついていました。

**題名** ある晴れた夏の朝（偕成社）

**著者** 小手毬るい

簡単な内容の紹介(この本に関しては、そういう本があるということは知っていました。ただし、まだ正式に読んだことがなかったのでこちらで検索して調べました。)

アメリカの8人の高校生が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非をディベートする。肯定派、否定派、それぞれのメンバーは、日系アメリカ人のメイ（主人公）をはじめ、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、そのルーツはさまざまだ。はたして、どのような議論がくりひろげられるのか。そして、勝敗の行方は？

**題名** あんずの木の下で（原書房）

**著者** 小手毬るい

簡単な内容の紹介(読んだことがなかったのでこちらで検索して調べました)

昭和7年、日本で初めて設立された手足の不自由な子どもたちのための「光明学校」。(現在の東京都立光明特別支援学校) 障がいを理由に学童疎開の「対象外」にされた生徒たちを自力で避難させた校長先生、そして、温かく迎え入れた村人たち。だれも知らなかった戦争がここにある。

これから先、ご紹介いただける本が書名と作者名だけでのご紹介になるケースも考えられますが、可能な限り書いていけたらと考えています。みなさんもぜひ読んでみて下さい。

## ★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

### アブダビ重大事件パート2。えらいこっちゃえらいこっちゃ！！

以前、拉致事件のご紹介をしましたが、あれに匹敵する事件が勃発しました。

ある日、日本人学校の仕事を終えて帰宅しようとしていたら、学校の電話に妻からの電話が入りました。事情を聞くと、その日に幼稚園の遠足があり、長男が遠足でいった公園から家に、5ミリほどの円い木の実をたくさん持ち帰ったということです。長男はその豆をカーペットの上に広げて、楽しく遊んでいたのですが、その様子を横から見ていた、アブダビ生まれの次男が這い這いしながら近寄り、兄が楽しそうに遊んでいるものを数粒拝借し、「我がものにしよう！！」ともくろんだようです。彼は兄がとても楽しそうに遊んでいる豆を数粒横取りし、兄に取り返されない安全な貯蔵庫に入れたのでした。貯蔵庫というのは、彼の鼻の穴でした。

鼻の穴に詰められた豆は数粒。嫁がそれに気づいて、慌てて取り出したのですが、どうやっても一つとれません。それで仕事の終わる時間を見て学校まで電話で知らせてきたわけでした。

急いで帰宅した私は、子ども二人と家内を連れてインド人のクリニックに行きました。最初、先生は金属製の耳かきのようなもので、鼻の穴をほじくりましたが、うまくいきません。そこで、彼は大きさの違う金属製の耳かきを取りに隣の部屋に行きました。

みなが不安げに次男の様子を見守る中、次男に異変が・・・。

くしゃみをしそうになったのでした。私はとっさに、次男の反対側の鼻の穴を押さえました。

すると、まるでおもちゃの鉄砲の玉のように、くしゃみとともに豆が鼻から勢いよく飛び出てきました。

その場にいた我々みんな大爆笑。

そこに例のインド人のお医者さんが新しい金属製の耳かきを持って帰ってきました。私は、もう解決したと彼に告げました。

私が解決したのに、そのお医者さんはきっちり治療費を請求してきました。「あなたは、鼻の穴をくすぐっただけなのに・・・」と心の中でぶつぶつ言いながらも、彼のおかげで「くしゃみが出た」ということで、貢献度に敬意を払ってちゃんと支払いました。

